

「2018年度L2-Tech水準表(素案)」に対する御意見の概要と御意見に対する回答

資料7

※御意見の全体像が分かるように、代表的なものを抽出し整理しております。
 ※意見の概要に記載された内容は、基本的にいただいた御意見から抜粋(または、要約)したのですが、明らかな誤字や変換ミスについては修正しております。

#	L2-TechリストNo.	設備・機器等の名称	カテゴリ	御意見の概要	御意見に対する回答
1	L-000674	蒸気ボイラ(貫流ボイラ)	水準の妥当性	L2-Tech水準表情報No.S-004499に該当する製品はすでに販売されており、L2-Tech水準を「98%」として追加可能である。	当該クラスについて、性能値を再調査し、L2-Tech水準を設定しました。
2	L-000611	温水機	水準の妥当性	クラス条件について、「LPG」の表記削除と水準の見直し「103%」、あるいは、「潜熱回収型LPG 焚き:103%」「潜熱回収型13A焚き:105%」が適切である。	いただいたご意見を踏まえ、温水機(L2-TechリストNo.L-000611)のクラス条件を、下記3種類に変更いたします。 ・潜熱回収型、LPG焚き ・潜熱回収型、都市ガス13A焚き 上記変更の理由としては、①潜熱回収の機能の有無についてクラス分けを行うことが機能と市場の実態から妥当であること、②ガス焚温水機市場はLPGと都市ガス13Aに2区分することが妥当であるためです。また上記のクラス条件の設定に伴い、製品調査を行い、L2-Tech水準を設定しました。
3	L-000611	温水機	クラスの妥当性	クラス条件について、「特になし」、「燃料:都市ガス13A、潜熱回収型」と「燃料:LPG、潜熱回収型」と分割するべきである。	
4	L-000674	蒸気ボイラ(貫流ボイラ)	クラスの妥当性	エアヒータ(空気予熱器)の搭載のみでクラスを新規設定すること(L2-Tech水準表情報No.S-004498およびS-004499)は妥当なのか。また、給水温度がクラス条件では「100度」、試験条件・説明では「15度」と記載されており、どちらが正しいのか。	100度以上の水をボイラに給水する際、熱交換率が常温給水時に比べて下がりますが、エアヒータを搭載によりボイラ効率が向上します。上記を踏まえ、クラスを新規設定しています。また、L2-Tech水準を示すボイラ効率は、標準規格に基づき、他のクラスと同様に常温給水時を表しています。
5	L-000624	自然冷媒冷凍冷蔵コンデンシングユニット	水準の妥当性	L2-Tech水準表情報No.S-003816、S-003824に該当する製品はすでに販売されており、L2-Tech水準をそれぞれ「1.84」、「0.95」として追加可能である。	当該クラスについて、性能値を再調査し、L2-Tech水準を設定しました。
6	L-000690	ガスエンジンコージェネレーション	水準の妥当性	L2-Tech水準表情報No.S-003804に該当する製品の最高性能は41.6%ではなく、40.3%である。発電効率41.6%を示す製品は現在生産中止となっている。	調査した結果、該当するL2-Tech水準の製品は生産中止となっていたため、改めて調査しなおしL2-Tech水準を設定しました。
7	L-000611	温水機	計算方法・試験条件の妥当性	温水発生機の日本暖房機器工業会規格には、HA-010:2015(無圧式温水発生機)があり、標準規格に加えるべきである。また、潜熱回収型温水機の日本暖房機器工業会規格には、HA-035:2017(ガス炊き潜熱回収型真空式温水発生機)、HA-036:2017(ガス炊き潜熱回収型無圧式温水発生機)も標準規格に加えるべきである。	L2-Tech水準表情報S-003722、S-003728、S-003731については「計算方法」および「試験条件」に「(あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015)」を追加しました。また、L2-Tech水準表情報S-004517、S-004518、S-004519、S-004532、S-004533、S-004534については「計算方法」および「試験条件」に「(あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017)」を追加しました。
8	L-000919、L-000921	高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)、高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式)	クラスの妥当性	高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)および高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式)については明確な規定がなく、記載条件が各社で異なる。前者は「外気温度DB7°C・RH:85%、温水入口温度55°C、温水出口温度60°C」、後者は「温水入口温度40°C、温水出口温度45°C、熱源水入口温度25°C、熱源水出口温度12.5°C」を条件とするクラスを追加するべきである。	ご意見の内容は、重要技術分野提案で御提案頂ければ幸いです。現在、来年度のL2-Techリストや水準表の更新に向けた提案を受け付けております。
9	L-000904	水冷ヒートポンプチラー	計算方法・試験条件の妥当性	ブラインクーラ(L2-Tech水準表情報No.S-003532など)については、カタログに記載している温度条件が各社で異なる。「ブライン入口温度0°C、ブライン出口温度-5°C、冷却水入口温度32°C、冷却水出口温度37°C」を条件とするクラス追加を加えるべきである。	ご意見の内容は、重要技術分野提案で御提案頂ければ幸いです。現在、来年度のL2-Techリストや水準表の更新に向けた提案を情報提供プラットフォームより受け付けております。
10	L-000905	空冷ヒートポンプチラー	計算方法・試験条件の妥当性	L2-Tech水準表情報No.S-003385など、クラス条件および試験条件「冷水出入口温度差7°C」かつ測定単位「PLV」とする規定はなく、カタログに記載しているメーカーは1社のみであり、標準条件とは言い難く、削除するべきである。	ご意見の内容は、重要技術分野提案で御提案頂ければ幸いです。現在、来年度のL2-Techリストや水準表の更新に向けた提案を情報提供プラットフォームより受け付けております。